連文節

二つ以上の文節がまとまって、主語・述語・修飾語などと同じ働きをするものを**連文節**という。

連文節で主語・述語・修飾語・接続語・独立語と同じ働きをするものをそれぞれ、**主部・述部・修飾部・接続部・独立部**とよぶ。

・白い（修飾語） 鳥が（主語） 飛ぶ。（述語） → 白い 鳥が（主部） 飛ぶ。

・彼は（主語） 兄の（修飾語） 友達だ。（述語） → 彼は 兄の 友達だ。（述部）

連文節では、並立や補助といった関係がみられることがある。

●並立の関係

二つ以上の文節が対等な関係で並び、ひとまとまりになっているものを、並立の関係という。

（例）雨と 風が（並立の関係（主部）） 強い。　その 山は 高く けわしい。（並立の関係（述部））

並立の関係の見分け方

並立の関係になっている文節同士は、文節の内容を入れ替えても意味が変わらない。

（例）雨と風が ＝ 風と雨が

●補助の関係

下の文節が上の文節の意味を補って、ひとまとまりになっているものを、補助の関係という。

（例）犬が 走って いる。（補助の関係）　本が 置いて ある。（補助の関係）

これを 見て ほしい。（補助の関係）　今日は 暑く ない。（補助の関係）

補助の関係では、下の文節（補助の文節）はもとの意味が薄れ、上の文節の意味を補っている。このような補助の文節に含まれる動詞や形容詞を、補助動詞・補助形容詞という。

（例）今 走って いる。（補助動詞）

（補助動詞「いる」は、もとの意味が薄れ、今動作が継続しているという意味を補う働きをしている。）

補助の関係の見分け方

補助の関係は、次のような形になっている。

・……て（で）＋ 補助動詞（補助形容詞）

（例）……て いる　……て ある　……て みる

……て くる　……て いく　……て おく

……て あげる　……て もらう　……て ほしい

・形容詞（形容動詞）＋ 補助形容詞「ない」

（例）暑く（形容詞） ない（補助形容詞）

確認テスト

(1) 次の各文の――線部の連文節の働きを、それぞれ**ア**～**オ**から選びなさい。

① 彼女(かのじょ)は　難しい　本を　読む。　〔　　〕

② 彼の　弟は　元気な　小学生だ。　〔　　〕

③ とても　寒いので、　コートを　着た。　〔　　〕

④ おだやかな　波が　水面に　広がる。　〔　　〕

⑤ 今年の　目標、　それは　優勝だ。　〔　　〕

ア 主部　**イ** 述部　**ウ** 修飾部
エ 接続部　**オ** 独立部

(2) 次の中から、――線部の二つの文節が、並立の関係になっているものを二つ選びなさい。

ア 梅と　桜が　咲(さ)いた。
イ 母と　山に　行った。
ウ 彼は　歩いて　きた。
エ 海は　広くて　大きい。

〔　　・　　〕

(3) 次の中から、――線部の二つの文節が、補助の関係になっているものを二つ選びなさい。

ア 先生は　本を　読んで　いる。
イ 先生は　今　図書室に　いる。
ウ 赤い　リンゴが　ない。
エ リンゴが　赤く　ない。

〔　　・　　〕

(4) 次の中から、――線部の二つの文節が、並立の関係になっているものと補助の関係になっているものを、それぞれ二つ選びなさい。

ア おいしい　お菓子(かし)を　もらった。
イ 鉛筆(えんぴつ)か　ペンを　借りたいです。
ウ 新しく　ない　備品を　整理しよう。
エ 自分の　知識を　試(ため)して　みた。
オ 遊園地まで　車で　出かけた。
カ 得意な　教科は　国語や　英語だ。

並立の関係　〔　　・　　〕
補助の関係　〔　　・　　〕